

本格的な探究活動が始まりました！

どの年次も本格的な探究活動が始まりました。3年次は昨年度の研究を継続して進めており、1、2年次もガイダンスを終え、テーマや仮説の検討を行いました。先行研究を調べたり実験を行う等、どの班も試行錯誤しながら進めています。1、3年次は前期生徒課題研究発表会に向けて、2年次は後期生徒課題研究発表会に向けて準備中です。

1年次

クラスごとに与えられた3つの探究テーマ(グライダー、風車、セイリングカー)について研究を進めています。

2年次

1年次の探究で学んだことをもとに、自然科学についてのテーマを自ら立て、研究を進めています。今後、それぞれのテーマに関連した科学倫理のテーマの研究も進めていく予定です。

3年次

昨年度の研究を引き続き行っています。検証が終わり、ポスターの作成を始めている班もありました。



科学部 角閃石に波状累帯構造を発見しました！

(1) 令和6年5月11日(土)、12日(日) 京都大学 EPMA 分析

昨年度1月末のオーストラリア海外研修で採取した岩石試料の薄片を作成し、その薄片を校内で偏光顕微鏡を用いて調べた結果、角閃石から波状累帯構造が複数見つかりました。岩石の成分を詳しく調べるため、京都大学にあるEPMA分析装置を使わせていただきました。京都大学大学院の学生から分析装置の使い方を教わった後、一般の高校生では普段扱えないような分析に生徒自ら取り組みました。

※EPMA (Electron Probe Micro Analyzer) : X線ビームを照射して、3 μ m範囲内の成分を分析する装置



(2) 令和6年5月26日(日) 日本地球惑星科学連合(JpGU)2024年大会

「高校生ポスター発表」でマグマ班とオーストラリア班がポスター発表を行いました。マグマ班のテーマは「西南日本山陽帯と山陰帯のマグマ分化末期の熱水残液循環の比較 - 深成岩の角閃石から発見した波状累帯構造で推定 -」、オーストラリア班のテーマは「豪州NSW州南東部沿岸 Bingi Bingi Point 複合深成岩体の形成過程」です。マグマ班は国内の岩石、オーストラリア班は海外の岩石が対象で、どちらの発表にも波状累帯構造に関する研究内容が含まれます。発表を通して、専門家や他校の高校生など、多くの方と議論を行うことができました。



★お知らせ(アラカルト講座&サイエンスカフェ)★

6月21日(金) 5、6限 アラカルト講座(1年次)、15:30~16:45 サイエンスカフェ(希望者)